

獅子頭の宮殿

栢田を歩く

旧野栄町域には東郷神楽や八雲神社祭礼囃子など市指定無形民俗文化財の伝統行事があり、中でも県指定無形民俗文化財の栢田地区「仁組獅子舞」は広く知られています。

今年1月5日に行われ（「獅子は各家で華麗な舞を披露。訪問を受けた家の人たちは、獅子に自分の体をかんでもらい、健康を祈願しました。」・『広報そうさ』令和7年3月号5ページ）この時使用された獅子頭をかつて収めていたという宮殿（厨子）を拝見することができました。



獅子頭を収めていた宮殿

高さ約97センチほどの宮殿は流造で、和紙を張ったと伝わる屋根部分の傷みが激しいものの飾りなどの細工に漆や金が使われ、手の込んだ印象を受けました。この獅子舞が始められたとされる天明年間（1781～1789年）に獅子頭とともに作られたでしょう。全国的な大飢饉に見舞われた際、獅子舞は上総国作田村（現・九十九里町）から木戸村（現・横芝光町）を経て、栢田村に伝承したと言われています。

興味深かったのは、かつて獅子頭を収めた宮殿を荷車に乗せ、各家々を回ったという言い伝えが残っていることです。年の初めに所願成就の強い信仰を寄せて獅子舞を迎え、荷車が家に着いたら宮殿から獅子頭を取り出し、舞ったのでしょ。

令和5年10月には、千葉県で11年ぶりに開催された「第65回関東ブロック民俗芸能大会」に県を代表する形で公演しました。時代が移り変わる中で、市内でも伝承継続が困難となり、取りやめになった伝統行事もあると聞きます。

仁組獅子舞保存会が今回、獅子頭の宮殿を公開してくれたことで、さらに関心が高まることを期待したいものです。

（市文化財審議会委員・

依知川雅二）

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080